

Title	戦後ノ輸出貿易 (大禮記念號)
Author(s)	河田, 嗣郎
Citation	經濟論叢 (1915), 1(5): 237-268
Issue Date	1915
URL	https://doi.org/10.14989/126917
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

經濟論叢

大禮記念號

京都帝國大學
法科大學
京都法學會

戰後ノ輸出貿易

助教授 河田 嗣 郎

- 一 過去ノ狀態ト現狀
- 二 發展ノ能力
- 三 發展ノ餘地
- 四 發展ノ方向
- 五 發展ニ要スル條件

歐洲大戰後ニ於テ通商貿易ノ狀勢ガ如何ニ展開シ行ク可キカニ就キテ、豫想的
研究ヲ試ムルハ頗ル興味アリ且ツ有益ナ事デハアルガ、戰爭最後ノ決着スラ何時
如何ニ結バルルカノ豫見シ難イ今日ニ於テ、敢テ之ヲ試ムルハ決シテ容易ナ業デ
ハナイ。唯ダ過去ノ勢向ト現在ノ事實トニ徴シテ、大體ノ見當ヲ付ケテ之ヲ示スヲ
得ルニ過ギヌ。而シテ今吾人ハ日本ノ輸出貿易特ニ其ノ戰後ニ於ケル發展ノ餘地、
發展ノ能力、發展ノ方向及ビ發展ニ必要ナル條件等ヲ專ラトシテ此ノ問題ヲ論ジ

ヲ見ヤウト思フノデアアルガ、之ヲ爲スニ就テハ議論ハ成ル可ク事實ヲ基礎トシテ其上ニ建テ、單純ナル憶測ハ之ヲ避クルニ努ムルケレドモ、元來問題ガ歐洲ニ於ケル事態ノ直接影響ヲ受ク可キ事柄デアレバ、所詮多少ノ推測ハ之ヲ避クル譯ニ行カヌノデアアル。仍テ議論ノ根柢ハ飽迄之ヲ既往及ビ現在ノ事實ノ上ニ置キ、タダ之ヲ材料トシテ推斷シ得可キ限ニ於テ豫見ヲ立ツルコトトスル。又現下戰時中ノ現象ニ就テハ眞ニ一時的現象トシカ見ルコトノ出來ヌモノハ差當ツテノ問題トシテハ可也、著明ナ事柄デモ之ヲ捨テテ願ズ、比較的永續ス可シト思ハルル狀態ニ就テノミ論ズルコトトスル。

一 過去ノ狀態ト現狀

先ヅ議論ノ順序トシテ過去ニ於ケル我國貿易ノ狀態ヲ見、併セテ昨年下半年以來多少ノ兆候ノ表ハレ本年ニ於テ俄カニ顯著トナリ來リタル變調ヲ示シテ見タイト思フ。

即チ我國ノ貿易ハ之ヲ過去ノ經過ニ就テ見レバ、先ヅ輸入超過ヲ以テ初マリ、中途暫ク輸出超過ノ狀勢ヲ持續シ後又輸入超過ノ勢ニ歸リ引續イテ昨年ニ至ツタ

モノデアル。詳言スレバ、明治十四年ニ至ル頃迄ハ年々數百萬圓ノ輸入超過デアツタモノガ、十五年ヨリ二十六年ニ至ルマデハ、タダ一年ノ例外ヲ除クノ外、比年數百萬圓乃至千數百萬圓ノ輸出超過ヲ示スコトトナツテ來タノデアアル。然ルニ日清戰爭アリテ以後事情ハ逆轉シ、其後ハ年々輸入超過一方デアツテ、其額小ハ參百五拾萬圓ヨリ大ハ壹億六千七百萬圓ニ至ルノ間ヲ不規則ニ昇降シテ居タノデアアル。唯纔カニ例外ヲ爲スハ三十九年ト四十二年トアルノミデアアル。而シテ此ノ狀態ハ近年頗ル憂フ可キモノトシテ論議セララルルニ至ツタノデアツテ、現ニ昨年歐洲戰爭ノ爆發スルニ至ル迄ハ爲政者ハ隨分此爲ニ頭ヲ痛メタモノデアアル。

輸入超過ト云フ事ハソレ自體何モ必ズシモ憂慮ス可キ狀態デハナイノデアアルケレドモ、我國ハ歐洲諸國ニ對シテ巨額ノ負債ヲシテ居ルモノデアアルカラ、正貨授受ノ關係上甚シク輸入超過ヲ恐レザルヲ得ザル狀態ニ陥ツタノデアアル。即チ一方ニハ既ニ多額ノ負債利子ヲ支拂ハザル可ラザルニ加ヘテ、他方又貿易決濟ノ爲メニ支拂ヲ爲サザル可ラズ、爲メニ正貨ハ流出スル一方ニシテ所謂在外正貨漸次欠乏シ來リ、此ノ數年此方ハ寔ニ憂フ可キ狀態トシテ之ヲ恐レザラントスルモ能ハザル仕誼トナツテ來タ譯デアアル。若シ之ガ英國ノ如キ對外債權國デアアルナラバ、輸

入超過ノ事實ハ決シテ憂フルニ足ラヌノデアアル。

英國ナラヌ我國ハ事情太ダ悲觀ス可キモノアリ、然モ時態頗ル切迫セルモノアルニ至ツタガ爲メニ、現内閣ノ如キハ其ノ登閣以來專ラ意ヲ貿易逆勢轉回策ニ注ギ、斷然、所謂消極策ニ依テ其ノ目的ヲ達セント欲シ、通貨ヲ縮少シテ物價ノ低落ヲ誘致シ、依テ以テ輸入ノ勢ヲ挫キ輸出ヲ獎メテ輸出超過ノ狀勢ヲ馴致セムト企テタノデアアル。時ノ大藏大臣ハ特ニ此等ノ目的ノ爲メニ事情ヲ告ゲテ事業家ノ反省ヲ促サント努メ、昨年六月十日全國實業家ヲ請待シタル席上ニ於テモ、頻リニ貿易逆勢ノ憂ヲ可キヲ述べ、大正三年ノ貿易ハ五月迄ノ成績ニ依レバ輸出ニ於テ約貳千貳百萬圓ヲ増加シ輸入ニ於テ約貳千百餘萬圓ヲ減少シ、之ヲ前年同期間ニ比スレバ稍々改善サレタル所アレドモ、五月末ノ現在ニ於テ猶ホ約五千四百餘萬圓ノ輸入超過ニナツテ居ルノ事實ヲ指摘シテ、大ニ逆勢挽回策ノ必要ナル所以ヲ力説シタ程デアツタ。

然ルニ幸カ不幸カ此時ニ當ツテ歐洲戰爭ハ爆發シタノデアアル。而シテ我國モ昨年内ニ在ツテハ、一方ニハ直接戰爭ニ參加シテ青島攻略ニ任ジタルト、他方ニハ世界一般ノ貿易界ノ常態破壞サレ、商品取引モ爲替關係モ共ニ一時混沌タル狀態ニ

陷ツタトノ爲メニ、貿易ノ狀態ハ一時伍里霧中ニ徨フノ狀況デアツタガ、其後事態ノ稍々鎮靜シ、爲替關係モ兎モ角運轉ノ利ク様ニナリ來ルト共ニ、我國ノ貿易ハ茲ニ漸ク活氣ヲ呈シ來ツタ。即チ一面ニハ多少政府ノ消極策ノ功ヲ奏シタルアルニ加ヘテ、他面ニハ歐洲諸國ヨリノ輸入ハ杜絶若クハ著シク減少シタルニ、却テ軍需品其他ノ註文ヲ見ルニ至リ、支那印度南洋諸地方等又頗ル物資ノ欠乏ニ苦ムデ其補ヲ我國ニ求メ來ルト云フ狀勢ヲ迎ヘテ來タモノデアルカラ、本年ニ於ケル我が貿易ハ十七年間ノ長キ例ヲ破ツテ輸出超過ヲ示スコトトナツタノデアアル。

之ヲ數字ニ照シ見レバ、本年十月上旬迄一月以降累計ニ於テ輸入四億貳千八拾萬壹千圓、輸出五億壹千七百貳拾參萬九千圓デアツテ、輸出超過額實ニ九千六百四拾參萬六千圓ト云フ巨額ニ上ツタノデアアル。我國開國以來未ダ替テ斯ノ如キ巨額ノ輸出超過ヲ見タ例ハナイ。明治二十五年ノ千九百七拾七萬圓ガ從來ノ「レコード」デアルカラ、トテモ比較ニハナラヌノデアアル。尤モ此巨額ナル輸出超過ノ原因ハ輸出ノ大分増加シタガ爲デモアルガ實ハ輸入ノ著シク減少シタコトニ存スルヲ見逃シテハナラヌ。又之ハ年末迄ノ成績ニ徴サナクテハ十分ナ事ハ云ヘヌ譯デアアルガ大體ニ於テ其點ニ間違ハナイ。要スルニ本年ニ於テ我國ガ右ノ如キ貿易狀態ヲ

呈スルニ至ツタコトハ洵ニ慶ス可キデアアル。兎モ角所謂逆勢ノ挽回ハ出來タノデアアルカラ、此上ハ唯ダ此勢ヲ持久永續セシムルノ工夫ヲスルガ肝要デアアル。

二 發展ノ能力

今我國ガ本年ニ於テ表ハレ來リタル貿易ノ順潮ヲ今後ニ持續スルヲ得可キヤ否ヤ、之ヲ爲スノ方法如何等ノ問題ニ就テ、段々論歩ヲ進メテ行クニハ、先ヅ吾人ハ從來我國ガ爲シ遂ゲ來リタル輸出入貿易上ノ進歩ヲ見、其ノ發展ノ能力如何ヲ攷察スルノ必要ナルヲ思フノデアアル。

開國以來ニ於ケル我國貿易ノ發達ハ良ニ日覺シイモノデアツタ。其ノ發達ノ歩合カラ云ヘバ、歐米何レノ國モ比敵シ得ルモノハ一ツモナイ。タダ其ノ商品輸出入ノ數量價格ニ至ツテハ、英獨米其他ノ國ハ遙カニ我ヲ凌駕スルノデアツテ、其域ニ達スルハ中々容易ナ事デハナイガ、ソレハ後進國タルノ悲シサ今ノ所デハ詮方モナイコトトシテ、吾等ハタゞ其ノ發達ノ速度ノ急速ナルヲ見、今後猶大イニ發展スルノ能力ニ於テ缺グル所ナキヲ思ヒテ、益々其計ヲ爲ス可キデアアル。試ニ一八八七年ヨリ一九一二年ニ至ル二十五年間ニ於ケル諸國貿易發達ノ狀況ヲ表示セバ

輸入

英吉利	1887	1912	増加
獨逸	1887	1912	増加
北米合衆國	1887	1912	増加
佛蘭西	1887	1912	増加
日本	1887	1912	増加

輸出

英吉利	1887	1912	増加
獨逸	1887	1912	増加
北米合衆國	1887	1912	増加
佛蘭西	1887	1912	増加
日本	1887	1912	増加

輸出入合計

英吉利	1887	1912	増加
獨逸	1887	1912	増加
北米合衆國	1887	1912	増加
佛蘭西	1887	1912	増加
日本	1887	1912	増加

〔單位百萬圓。表中英獨米佛ニ關スル數字ハ Dr. K. Helfferich, Deutschlands Volkswohlstand 1913 所掲ノモノナリ〕

輸出入何レニ於テモ貿易上大發展ヲ遂ゲタモノハ獨逸及ビ北米合衆國デアアルケレドモ、發展ノ程度ノ大ナルコト即チ輸出入増加歩合ノ大ナルコトニ於テハ日本ハ實ニ拔群ノ狀勢ヲ示シテ居ル。二十五年前ニハ僅カニ四千四百萬圓ヲ示シテ居タ輸入ガ増シテ六億貳千萬圓トナリ、輸出ハ又僅々五千萬圓カラシテ五億貳千餘萬圓トナツテ居ル。即チ輸出入合計ニ於テ四半世紀間ノ増加ノ歩合ハ實ニ一〇八五%、正ニ十倍以上トナツタノデアアル。之ニ比較シテハ流石急速ノ發展ヲ爲セル獨逸モ顔色ナキ次第デアル。

我國ノ輸出入貿易ノ増加歩合ノ驚ク可ク大ナルハ二十五年以前ニ於ケル輸出入額ガ餘リニ僅少デアツタガ爲メデアルカラ、今後二十五年ノ後ニ於テ、ヤハリ之

ト同様ナル發展歩合ヲ見ムコトハ頗ル困難殆ンド望ノ無イ所デアアルガ、今後奮發一番スルニ於テハ、終ニ能ク佛蘭西ノ壘ヲ摩スル所マデ位潛ギツケルコトハ餘リ難事デモナク、又餘リ多クノ年月ヲ要サナクテモ可イカモ知レヌ。要スルニ我國ノ貿易ハ其ノ發達ノ能力ト云フ點ニ於テハ過去ニ於テ驚クニ値スルモノデアツタガ如ク、現在及ビ將來ニ於テモ、必ズヤ又見ルニ足ル可キモノガアルデアラウ。

尙ホ吾人ハ諸國ニ於ケル商船増加ノ状態ヲ示シテ我國ノトノ比較ニ資シ、我が通商發展ノ有様ヲ更ニ明カニシテ見タイト思フ。蓋シ商船増加ノ割合ハ、又以テ通商貿易ノ發達ノ程度ヲ計ル尺度ノ一トナスニ足リルカラデアアル。

年次	帆船		汽船		合計	
	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數
英 吉 利	1,201	2,200	1,100	2,200	2,301	4,400
北 米 合 衆 國	1,085	2,200	1,100	2,200	2,185	4,400
獨 逸	1,085	2,200	1,100	2,200	2,185	4,400
佛 蘭 西	1,085	2,200	1,100	2,200	2,185	4,400
日 本	1,085	2,200	1,100	2,200	2,185	4,400
(單位登錄噸數) 一〇〇〇噸 * 總噸數	1,085	2,200	1,100	2,200	2,185	4,400

註Ⅱ我國ニハ帆船中右表以外ニ尙ホ和船ナルモノアリ其數(一九〇三年—一九四七年)二九一二年—八一七隻。

二三六、四一六石。
二八三、九九九石。

我國ハ今ヤ汽船帆船共ニ隻數ニ於テハ獨逸ヲ凌ギ、汽船ノ隻數噸數共ニ佛蘭西ヨリモ多ク、兩者合計噸數ニ於テモ彼ヲ凌駕シテ居ルノデアアル。即チ我ガ海運業ノ實力ハ既ニ其ノ現狀ニ於テ列國ニ著シク後レヲ取ツテ居ルモノデハナイ。而シテ過去十年間ノ發達ノ歩合ニ照シテ之ヲ見レバ將來大ニ雄飛ス可キ望ハ十分デアルト云ハネバナラス。

三 發展ノ餘地

右示スガ如ク我國ノ海外貿易ハ其ノ發達ノ能力ニ於テハ、畜ニ缺グル所ナキノミナラズ寧ロ驚ク可キ發展能力ヲ發揮シ來ツタモノデアアル。ソコデ今日及ビ今後ニ於テ、此ノ大イナル能力ガ能ク伸張シ得ベキ餘地十分ナル可キヤ否ヤト云フコトハ、次ニ來ル可キ問題トシテ講究シナクテハナラヌ所デアアル。今吾人ハ今回ノ戰局ニ由テ表ハレ來リタル新タナル世界通商上ノ局面ヲ攷察シ、タダ一時のナル變兆ト見ル可キヲ捨テ稍ヤ永續的ナル可シト思ハルル所ニ就テ此問題ニ對スル解

釋ヲ求メテ見ヤウト思フ。

歐洲戰爭ノ爆發スルヤ、當初我モ人モ謂ラク、之レ良ニ有史以來ノ大事件デアツテ、人類ノ歴史ハ此ニ改造セラレ文明ハ其ノ趨向ヲ一變シ、政治外交關係ハ勿論ノコト、國家ノ組織、社會ノ構成、經濟ノ狀態モ之ニ依ツテ殆ンド面目ヲ一新スル程ノモノガアルデアラウト。然ルニ戰局ノ漸次發展スルニ連レ、漸クニシテ此ノ感想ハ變化シ來リ、戰爭一年ヲ經タル今日ニ於テハ、曩ノ感想ハ殆ンド消ヘ失セテシマツタ。今ヤ却テ我レ人共ニ戰後狀態ハ其ノ萬般ニ於テ大ニ變化コススレ、大體ニ於テハヤハリ戰前狀態ノ繼續デアツテ、餘リニ根本的ナル、文明ノ根柢ニ變化ヲ來スガ如キ變革ノ表ハレ來ル可シトハ思ハザルニ至ツタ。政治ノ大本ニ於テハヤハリ國家主義ノ行ハレ、帝國主義ハ依然トシテ對外關係ニ於ケル國家努力ノ標的デアツテ、武力ニ依テ國權ヲ伸張シ經濟的發展ヲ計ルト云フコトガ、ヤハリ國家間ノ抗爭ノ因テ來ル所デモアリ又目的トスル所デモナクテハナラヌ。而シテ戰後ニ於テハ此ノ國家的競爭ハ戰前ヨリモ更ニ露骨ニ、更ニ懸命ニ、更ニ組織的ニ、更ニ大規模ニ行ハルルニ至ルデアラウト云フコトハ、今ヤ殆ンド之ヲ疑ハント欲シテ疑フ能ハザル所トナツテ來タノデアアル。

斯ノ如ク開戰當初ト今日ト吾レ人ノ感想ノ變ツテ來タノハ、當初ハ誰シモ獨逸ノ必ズヤ戰敗シ其ノ軍國主義ハ打亡ボサレ、其ノ國家組織ハ革メラレ、其ノ政策ハ根本的ニ打破セラレ、茲ニ歐洲ノ天地ニ新タナル國家組織ノ出現シ、新タナル國際關係ノ結バレ、新タナル政策ノ行ハレ、新タナル主義ノ政治上ニモ社會上ニモ經濟上ニモ樹立セラルルニ至ル可キヲ思フタカラデアアル。然ルニ思ヒキヤ、敗ク可キ獨逸ハ敗ケズシテ却テ四境ノ外ヲ攻略シ、勝ツ可キ露西亞ハ頻リニ敗ケ、佛英ハ又一年ノ長キガ間甲羅ヲ抑ヘラレタル龜子ノ如ク首モ手足モ出シ得ヌ有様ニ立至ラントハ。

戰旅ノコトハ今ヲ以テ明ヲ計ル可ラザレドモ、過去一年ノ經驗ニ徴スレバ、今後何レニ勝利ノ神ノ紐スルニセヨ、戰局ノ終結ハ所謂引分ケニ依テ行ハル可キコト之ヲ逆睹スルニ難カラザル所デアアル。七分三分乎四分六分乎、又何レノ方ガ勝者タルニセヨ、敗者タルニセヨ、兎モ角引分ケタルカラニハ、戰後ノ狀態ハ其大體ニ於テ戰前狀態ノ繼續タル可キハ之ヲ疑フコトガ出來ヌ。然ラバ即チ通商貿易ノ方面ニ於テモ大體ニ於テハヤハリ從前通りニ、例ノ國々ニ依リテ例ノ如キ輸出入ノ行ハレ、例ノ如キ販路ニ於テ例ノ如キ競爭ノ行ハレ、又國々ニ在リテハ例ノ如キ手段ヲ以

テ例ノ如キ發展の方策ノ講セラレ努力ノ費サル可キコト亦之ヲ推測スルニ難カラザル所デアル。

而シテ獨逸ノ如キ今回ノ戰爭ニ於テ武力ニ於テコソ常ニ機先ヲ制シ優勢ヲ示シ得タレ其ノ常ニ苦ミタルハ經濟的實力ノ十分ナラズ經濟上ニ於ケル帝國の獨立ノ十分確固タラザルモノアルノ點デアルカラシテ戰後ニ於テハ更ニ武ヲ練リ特ニ海軍力ノ擴充ヲ圖ルト同時ニ更ニ大ニ經濟的發展ヲ期シヤウトスルハ火ヲ睹ルヨリモ明カデアアル故ニ戰後各國間ニ於ケル通商上ノ競争ハ從前ヨリモ一層激甚ヲ致ス可キヤ之ヲ疑フ事ガ出來ヌ而シテ之ヲ行フニハ所謂帝國主義の方略ヲ以テス可キヤ論ナキ所デアリ帝國主義ハ愈々經濟政策的意義ヲ加重シ來ル可キヲ思ハナクテハナラヌ然リ而シテ他方英吉利ハ其ノ六韜三略ト特ミ來リタル自由放任主義ノ弊害トト利益トヲ今度此度シミジミ味ヒ盡シタノデアアルカラ戰後ハ多少トモニ保護政策ヲ加味セザラムトスルモ能ハザル所デアアル特ニ植民地トノ經濟的連結ヲ今一層緊密ニスルノ必要ナルハ今回十分ニ覺ラサレタコトデアアルカラ其爲ニ色々ト施設スルコトトナラザルヲ得ナイ彼ノ特惠關稅率制ノ如キモ大ニ其ノ意義ヲ加ヘ來ルデアラウ何レニシテモ戰後ハヤハリ戰前ノ如ク世

界貿易市場ハ列國角逐ノ修羅場デアリ、競争諸國ノ顔振レモ亦従前ト餘リ變リハアルマイ。

然リト雖ドモ、獨逸ガ從來アレダケノ苦心經營ノ結果漸クニ築キ上ゲタル世界貿易市場ニ於ケル信用ト販路トハ今ヤ全ク破壊セラレ、米國其他二三中立國ノ商品然ラザレバ日本ノ商品ガ漸次之ニ代ツテ其ノ地位ヲ奪ヒツツアルノ有様デアルシ。又英佛等モ開戦以來輸出貿易ハ頗ル衰頽シ、英國ノ如キ本年上半年ノ輸出額ダケデモ昨年同期ニ比シ七億壹千八百萬圓ヲ減ジテ居ル状態デアル。之等ノ商品供給上ノ缺ヲ補フガ爲ニモ印度ヤ南洋諸島ヤ濠洲アタリヘ對シテハ日本品ガ盛ニ賣行キ益々其ノ販路ヲ廣メツツアル様ノ次第デアルカラシテ、戦後ニ於ケル世界貿易市場ノ構成状態ハ戦前ノ状態トハ又自ラ頗ル様子ヲ異ニスルモノトナツテ來ルゴトハ爭ハレス所デアル。

人或ハ戦時中獨逸品ニ取テ代リ、又英國品ナドノ缺ヲ補フガ爲メニ日本品ノ販路ガ擴張サレタカラトテ、戦一ト度終レバ獨逸ハ捲土重來、更ニ一層ノ努力ヲ以テ舊販路ノ恢復ト新販路ノ開拓トノ爲ニ盡スデアラウシ、英佛亦失ヒタル所ハ之ヲ挽回スルニ努ム可キヤ明カナレバ、日本ハ折角ニシテ獲タル販路、折角ニシテ擴張

シタル輸出貿易ヲ問モナクシテ再ビ失フニ至ル可シト杞憂スルデアラウ。之ハ或程度迄ハ尤ナ憂慮デアアル。戰時中ニ開ケタル我が輸出貿易ノ道ガ其儘何時迄モ全部保持サレ得可キヤ否ヤハ疑問デアリ、寧ロ其ノ一部分ハ又奪ヒ返サルルモノト見ル方ガ過ナキニ近イデアラウ。

然シ乍ラ吾人ノ見ル所ヲ以テスレバ、今回ノ大戰ニ依テ歐洲各交戰國ノ被ル經濟的打撃ハ絶大デアアル。最モ激甚ナル打撃ヲ被ル可キハ獨逸タルコト云フ迄モナイ所デアアルガ、英國ニシロ佛國ニシロ其ノ被ル損害タルヤ決シテ少々ナモノデハナイ。試ニ英吉利ニ付キテ見ルモ、開戰以來一年間ニ於テ百億圓以上ノ戰費ヲ要シテ居リ、一日平均凡ソ參千萬圓ノ金ハ戰費トシテ亡滅ニ歸シツツアル。而シテ若シ之ガ國民ノ貯蓄ノミデ支辨ガ出來レバマダシモデアアルガ、英國民ノ年々ノ收入ハ貳百貳拾五億六千萬圓乃至貳百四拾億圓トセラレ其ノ支出ハ貳百億圓トセラルルノデアアルカラ、貯蓄トシテ殘ルモノハ貳拾六億乃至四拾億ニ過ギナイ譯デアリ、從テ戰爭ハ此ノ資本トナル可キモノヲ喰盡シテ毫モ新ナル資本ノ成立スルヲ許サザルノミナラズ夥シキ額ニ於テ既成資本ヲ費消シツツアルノデアアル。若クハ又永ク公債トシテ遣ツテ將來ニ於ケル資本ノ成立ヲ防礙シ抑制スルノデアアル。何シ

ロ一年間ニ百億圓以上モ掛ツテハ戰爭ノ今後永ク續クコトハ英國ト雖モ非常ニ苦痛トスル所デアアル。英國己ニ然リ況ンヤ獨逸如キヲヤ。

戰費トシテ財政計算上ニ計上セラルル所以外、戰爭ガ直接間接ニ、或ハ積極的ニ、經濟財ヲ撲燼毀傷シ、或ハ消極的ニ生産力ヲ亡ボシ、生産ノ機會ヲ失ハシメ、生産ノ道ヲ杜絶セシムル所ノモノニ至ツテハ、蓋シ計リ知ルコトノ出來ヌホドノモノデアアル。要スルニ交戰各國ノ負フ創痕ハトテモ想像ノ及バヌホドデアツテ、其ノ創痕ノ癒ユル迄ニハ、少クトモ數年若クハ十年ヲ要スルモノト見ナクテハナラス。吾人ハ此點ニ關シテハ頗ル悲觀論者デアアル。歐洲各交戰國ガ戰後間モナク又元ノ經濟的元氣ヲ恢復シ、直チニ所謂戰後經營ノ爲メニ、大々的ニ事業ヲ起シ、舊ニモ優ル活躍ヲ爲シ得ルモノト思フコトハ出來ナイ。勿論之ハ今後戰爭ノ繼續スル期間ニモ、關スル所デアアルガ、何レニシテモ戰後ノ歐洲經濟界ヲ日清日露戰後ノ日本ノソレノ如クニ豫見スルノハ當ラナイト思フ。デアアルカラ吾人ハ通商貿易ノ關係ニ於テモ、獨逸ガ如何ニ煩悶スレバトテ、英佛ガ如何ニ焦慮スレバトテ、戰時中ニ失ツタ販路ヲ戰後間モナク奪ヒ返スト云フコトハ、ソウ容易ニ出來ル筈ノモノデハナイト考ヘル。縱令結局ハ多少之ヲ爲シ得ルニシテモ、ソレニハ相當ノ時間ガ掛リ、又其ノ

一部分、ダケシカ目的ヲ達シ得ヌコトトナルヲ疑フヲ得ナイ。

其暇ニ於テ日本ガ獨逸其他ノ失ツタ販路ヲ獲得スルニ、努メ、一旦十分緊密ナル取引關係ヲ結ムテ置ケバ、年月ノ經ツ内ニハ漸次日本品ノ價值モ認メラレ、所謂馴染モ出來、或程度マデ取引ノ基礎ガ据レバ、其内又歐洲品ガ大ニ來ツテ競争ヲセムトシテモ、最早之ヲ如何トモ爲スヲ得ルナク、日本品ハ十分其ノ競争ニ堪ヘ得ルコトトモナルノデアアル。何レニシテモ今ノ時ガ大事ナ時デアアル、此時ニ當ツテ我ガ生産者タルモノ、我ガ商人タル者ガ、大ニ講究努力シテ割リ込ミ得ル限リ各地各隅ニ割込ムデ根ヲ下ロスコトニ盡スニ於テハ、今日及ビ將來共ニ我ガ貿易ハ大ナル發展ノ餘地ヲ有スルコト疑ノナイ所デアアル。

四、發展ノ方向

然ラバ次ニ來ル問題ハ、將來ニ於ケル我ガ輸出貿易發展ノ方向ハ何レノ邊ニ存シ、又其ノ商品ハ何レノ種類ノモノヲ主トス可キカト云フコトデアアルガ、之ハヤハリ過去ニ於ケル我ガ貿易發達ノ方向及ビ其ノ商品ノ何レヲ宗トスルカラ調ベテ、見テ、之ヨリシテ推斷スルノガ安全ナ道ダト思ハルル。

試ニ大正元年以前十年間ニ於ケル我ガ輸出貿易額ノ國別表ヲ示シテ、我ガ輸出

得意先ノ關係ヲ尋ネ、其ノ發展スル國々ヲ調ヘテ見ルニトスル。

支那	關東州	英領印度	香港	朝鮮	英領印度支那	露領亞細亞	佛領印度支那	蘭領印度	比利賓	暹羅	合計	英吉利	佛蘭西	獨逸	伊太利	露西亞	歐洲合計	北米合衆國	英領亞米利加	露太利
明治三六 千兩	三三 千兩	三七八 千兩	三九四 千兩	四〇四 千兩	四二一 千兩	四三三 千兩	四四四 千兩	四五六 千兩	四六八 千兩	四八〇 千兩	五〇二 千兩	五二四 千兩	五四六 千兩	五六八 千兩	五九〇 千兩	六一二 千兩	六三四 千兩	六五五 千兩	六七八 千兩	七〇〇 千兩
三三	三三	三七八	三九四	四〇四	四二一	四三三	四四四	四五六	四六八	四八〇	五〇二	五二四	五四六	五六八	五九〇	六一二	六三四	六五五	六七八	七〇〇
三三	三三	三七八	三九四	四〇四	四二一	四三三	四四四	四五六	四六八	四八〇	五〇二	五二四	五四六	五六八	五九〇	六一二	六三四	六五五	六七八	七〇〇
三三	三三	三七八	三九四	四〇四	四二一	四三三	四四四	四五六	四六八	四八〇	五〇二	五二四	五四六	五六八	五九〇	六一二	六三四	六五五	六七八	七〇〇

大禮記念號 (二五三)

戰後ノ輸出貿易

右表ニ照シ之ヲ見レバ、我國ノ輸出貿易ハ何レノ國ニ對シテモ比年増加ノ勢ヲ呈シテ居リ、然カモ其ノ増加ノ狀態ハ頗ル健實ナル發達ヲ示シテ居ルノデアアル。而シテ輸出得意先トシテハ、何ト云フテモ北米合衆國ガ第一等デアツテ、之ニ對スル輸出額ハ實ニ歐洲全體ニ對スル合計ヨリモ遙カニ多イノデアアル。今後ト雖ドモ米國ガ我が商品ヲ需要スル程度ノ益々増大ス可キコトハ疑ノナイ所デアアル。洵ニ今回ノ大戰ニ當ツテ米國ホド甘イ汁ヲ吸ツタモノハナク、其ノ對歐輸出貿易ハ彌ガ上ニモ殷盛ヲ極メテ居ルカラ、其ノ利得ハ實ニ莫大ナモノデアリ、從テ其ノ購買力モ大ニ増シテ來ナクテハナラヌ。從テ又我が國品特ニ絹絲絹布類ニ對スル需要ハ又大ニ盛トナツテ來ナケレバナラヌ筈デアアル。何レニシテモ米國ハ今日及ビ今後共ニ我が第一ノ得意先タルハ變ラヌコトデアラウ。

我が輸出貿易ノ得意先トシテ歐洲デハヤハリ佛英デアアル。今後露西亞ニ對シテハ大ニ貿易伸張ノ餘地アルコトトハ思ハル、ガ、西伯利亞ハ兎モ角、歐羅巴露西亞ニ對シテハ、何分運搬ノ不便アリ又獨塊ト云フ地ノ利ヲ得タル競争者アルコトデアルカラ、非常ニ大ナル發展ヲ望ムコトハ出來難イカト思ハルル。何レニシテモ當事者ノ甚大ナル努力ヲ要スルコトタルヲ免レヌ。今日軍需品ノ大注文アルニ依リ

テ急ニ第一等ノ得意先トナツタケレドモ、之ヲ平時ニ持續シ、武器ニ代フルニ普通商品ヲ以テシテ、永ク良好ノ得意先トスルガ爲メニハ、頗ル大ナル努力ヲ要スルコトト思ハルル。然シ今回ノ軍需品取引ニ依リテ貿易關係ガ密接トナリ、兩國互ニ商的ニモ十分能ク了解スルニ至ルコトハ我ガ對露貿易ノ前途ノ爲メニハ甚ダ慶賀ス可キコトデアル。從來露西亞ノ輸入市場ハ殆ンド獨塊ノ獨占スル所ニ歸シテ居リ、輸入價格ノ半額ハ獨逸商品ノ占ムル所トナツテ居タノデアル。多少割込ム餘地ガ無イトハ云ヘヌ。

扱テ翻テ亞細亞諸國ニ就テ見レバ、支那ハヤハリ第一ノ得意先デアリ、今後ト雖ドモ依然トシテ然ル、可キヤ疑ナク、又必ズヤ然ラザル可ラザルモノデアル。然シ支那以外ノ諸國何レニ對シテモ比年輸出額ガ着實ノ武步ヲ以テ進ムデ居ルノハ喜ブ可キ所デアアル。特ニ英領印度及比利賓ニ對スル貿易發達ノ狀況ハ頗ル有望ナモノデアアル。今後ト雖ドモ我ガ輸出貿易ガ此等亞細亞諸國ニ向ツテ大ニ伸張スルノ方針ヲ取ツテ進ム可キハ賭易キ理デアリ、吾人ハ今後特ニ我ガ亞細亞貿易ノ盛大ニ向ハンコトヲ希望スル者デアアル。莫ニ我ガ商品ノ販路ヲ開拓ス可キ餘地ハ之ヲ歐洲ノ如キ開ケ盡シタル市場ニ求ム可ラズシテ亞細亞ノ未ダ十分開カレザル

市場ニ求メナクテハナラヌ。殊ニ我國ハ亞細亞諸國ニ對シテハ地理上カラ云ツテモ人種上カラ云ツテモ、歐米競争國ニ對シ有利ノ地位ヲ占メテ居ルノデアルカラ、我が當業者ハ今日ノ好機ニ乗ジテ飽迄發展ノ地盤ヲ固メ、廣ク深ク亞細亞諸國ノ市場ニ喰入ツテ立派ニ根ヲ下ロシテシマヒ、戰後歐洲諸國ノ競争ガ再ビ襲ヒ來ツテモ小搖ギモセヌ地步ヲ固メテ置クノガ何コリノ急務デアアル。其爲ニハ今日ノ如キ好機會ハ又ト再ビ來ルモノデハナイ。

蒙太利亦近年大ニ我が商品ノ需要ヲ増シ來リ、特ニ戰爭ノ始マリテ以後ハ彼國人ノ我ニ對スル感情モ好ク、又我が商品ノ需要モ俄カニ増大シ來リタルコト廣ク世ニ知ラレタル事實デアアル。之レ亦亞細亞諸國ニ對スルト同ジク、今日ノ天與ノ機會ニ於テ我が商品ヲ賣廣メ販路ヲ確實ニ築キ上ゲテ置クコトガ肝要デアアル。

次ニ輸出商品ニ就テ我が輸出貿易ノ狀況ヲ察スルニ、之レ亦既往ノ狀況ハ以テ將來ヲ推スノ料ト爲スニ足リルデアラウ。例ニ從ヒ先ツ左ニ大正元年以前十年間ニ於ケル輸出商品價格比年増加ノ狀態ヲ示スコトトスル。尤モ一々ノ品目ニ就キ之ヲ示サンハ其煩ニ堪ヘザレバ、之ヲ種別シ就中又年額千萬圓以上ノ輸出アル物ノミヲ計上スル。

	明治三六	三十七	三十八	三十九	四〇	四一	四二	四三	四四	大正元
茶	1,325,000	1,310,000	1,080,000	1,070,000	1,120,000	1,120,000	1,120,000	1,120,000	1,120,000	1,120,000
海産物	4,750,000	4,800,000	4,800,000	4,800,000	4,800,000	4,800,000	4,800,000	4,800,000	4,800,000	4,800,000
飲料及食品	5,750,000	5,750,000	5,750,000	5,750,000	5,750,000	5,750,000	5,750,000	5,750,000	5,750,000	5,750,000
藥品化學品	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000
化粧品等	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000
絹絲絹布	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000
綿絲綿布	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000
衣類及附屬品	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000
加工金屬品	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000
金屬鑲	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000
輸出總計	26,920,000	26,920,000	26,920,000	26,920,000	26,920,000	26,920,000	26,920,000	26,920,000	26,920,000	26,920,000

我國ノ輸出商品中ニ在ツテハ絹絲絹布ハ何ト云フテモ大宗デアアル。既往ニ於テ然リシガ如ク將來ニ於テモ先ヅ暫ハ拔群ノ地位ヲ占ムルコトデアラウ。ケレドモ比年輸出額増加ノ歩合カラ云ヘバ、綿絲布ハ絹絲布ヲ凌ギ、十年間ニ於テ其ノ輸出價格ハ倍以上ニ増加シタノデアアル。今後ハ支那其他ニ於ケル生産増加ノ爲メ從來通リノ發達ヲ續ケ得ルヤ否ヤハ疑問デアアルガ、兎モ角我が輸出品トシテハ立派ナ地位ヲ占メタモノデアアル。此他ニ於テハ飲料及ビ食品ノ如キモ頗ル健全ナル發達ヲ遂ゲテ居ル。戰爭ト共ニ獨逸品ニ代ツテ麥酒ノ輸出大ニ盛況ヲ呈スルニ至リタルガ如キ、戰後獨逸品トノ競爭ハ中々容易デハアルマイケレドモ、需要各地方ノ嗜

好ニ適スルノ方法ヲ研究スルニ怠ラズ又賣廣メノ術其宜シキヲ得タナラバ、將來甚ダ有望ナリト云ハナケレバナラス。

次ニ衣類及ビ附屬品ノ輸出ノ増加歩合ニ至ツテハ寧ロ驚ク可キモノデアアル。十年間ニ於テ其ノ價格ハ約十倍ニモ及バントスルノ増加ヲ爲シタノデアアル。洵ニ近年ニ至ツテハ綿製メリヤス襪衣ノ如キハ多少英國ニスラ輸出サルルニ至ツタ有様デアツタガ、今年ハ獨逸品杜絶ノ爲メ英露ヨリノ註文巨額ニ上ボリ、平年輸出額八九百萬圓ニ過ギナイノガ本年ハ千五六百萬圓ノ輸出ヲ見ルデアラウト傳ヘラレテ居ル。又印度ニ於ケル需要モ大ニ活氣ヲ呈シテ來タトノコトデアアル。

右等ノ外諸多ノ雜貨品ニ於テモ亞細亞市場其他ニ於ケル當面ノ競争者タル獨逸ガアノ現狀ニ在リ、又先ニ論ジタルガ如ク、戰後暫ノ間ハ到底戰前ノ活氣ヲ恢復シ得可クモナク、一度失ハレタル販路ヲ奪回セムコト必ズシモ餘リ容易ノ業デナイト云フコトハ、日本ニ取ツテハ頗ル有利ナ事デアアル。希クハ我が當業者自ラ相戒メテ一時ノ目先ノ利得ノタメニ永遠ノ計ヲ失フコトナク、彼ノ通弊タル粗製濫造ヲ避ケテ着實ナル地歩ヲ布クニ努力セムコトヲ。此爲ニハ今日ハ眞ニ千歲一遇ノ好機デアアル、此機ヲ誤ラバ取返シハツカヌモノト覺悟シナケレバナラス。而シテ輸

出貿易ニ於テモ亦正直ハ最良ノ商略デアル。

五 發展ニ要スル條件

戰後我ガ輸出貿易ヲ大ニ發展セシムガ爲ニハ、政府ノ指導扶護ト當業者ノ努力經營ト相待ツテ進マナケレバナラヌ。何レノ方面ニ於テモ倍舊ノ奮發ヲ要スルハ勿論ノコトデアルガ、ソレニ就イテハ吾人ハ從來ノ狀態ニ於テ改善ヲ要ス可キモノ、又新ニ計畫ス可ク施設ス可キモノノ尠カラザルヲ思フ者デアアル。以下少シク戰後輸出貿易伸張ノ條件ト見ル可キ點ニツキ思フ所ヲ述ベテ見ヤウ。

先ツ吾人ハ我國ノ生産事業ハ啻ニ輸出品ノ製造ノミニ限ラズ一般ニ之ニ關スル科學的并ニ技術的研究ガ足ラナイト思フ。學問ハ學問技術ハ技術ト云フ風ニ各各思ヒ思ヒニ自分勝手ノコトバカリ遣ツテ居リ、甘ク兩者ノ聯絡ヲ取り互ニ相助長シテ行ク風ノ乏シイノハ我國一般ノ缺點デアアル。然シ今後大ニ生産業ヲ盛ニシ殊ニ製造工業ヲ盛ニシテ輸出貿易ヲモ十分伸張セムトスルニハ是非トモ之ハ改メナクテハナラヌ。學問ノ方ニ在ツテハ純學理ノ研究ハ素ヨリ第一必要ノコトデアルケレドモ、ソレト同時ニ又其ノ研究ノ結果ヲ實地ニ應用スルノ工夫ヲ怠ラズ、

生産技術者ノ方ニ在ツテハ又常ニ科學上及ビ技術上ノ研鑽ヲ積ムヲ怠ラズ、改善ニ改善ヲ加ヘ新規ハ更ニ之ヲ新規ニスルノ努力ガナクテハナラヌ。此等ノ點ニ關シテハ獨逸ノ有様ハ頗ル範トスルニ足ルモノガアル。獨逸ガアノ貧弱ナル富源ヲ以テシテ能ク今日ノ如キ製造工業上ノ發達ヲ遂ゲ得タル所以ノ一半ハ實ニ此ノ研究的精神ノ横溢ト其實行トニ存セザルヲ得ヌ。彼ノ『カイザー、ウイルヘルム、インステット』ニ於ケル應用理化學ノ研究ヲ始メトシ、學問研究ノ方面デハ、怠ラズ實用向ノ研鑽ヲ重テ居ルト同時ニ、又製造工業ノ方ニ在ツテモ研究ノ爲メニ費用ヲ吝マズ、又有爲ノ人ヲ聘用シテ常ニ其爲ニ盡力シテ居ルノデアアル。彼ノ炭汁染料工業ノ如キ近者年額壹億圓ニ達スル營業利益ヲ上ゲ得ル域ニ迄發達シタノデアアルガ、其ノ最大最古ノ會社ニ於テ純益金壹千貳百萬圓中先ツ其ノ三分一ヲ割イテ新發明新企畫技師養成等ノ爲メノ費用ニ充テ、株主ヘノ配當ハ僅カニ純益金ノ二割八分ヲ當テテ居ルト云フニ過ギザルガ如キハ、良ニ人ヲシテ獨逸染料工業ノ今日アル實ニ所以ナキニ非ザルヲ思ハシムルモノデアアル。我國ニ於テモ今後ハ唯ダ外國ニ於ケル新發明新技術等ノ模倣ヲ爲シ、纔カニ之ヲ會得シ彼ニ倣ツテ之ヲ生産ニ應用シ得ルヲ以テ能事終レリトセズ、大ニ進ムデ自ラ發明シ自ラ新技術ヲ案

出スルノ工夫ヲ凝スコトガ肝要デアル。我國モ決シテ天然ノ富源ノ豊ナル國デハ
ナイノデアアルカラ、今後大ニ發展セムガ爲ニハドウシテモ人ノ力ニ依ルノ外ハナ
イ、頭ノ働ニ由ツテ富ヲ造ルノ工夫ヲ立ツルノ外ニ道ハナイノデアアル。吾人ハ今後
大ニ研究的精神ト技術的教育トノ盛ナルヲ致サムコトヲ希望シテ止マヌモノデ
アル。

次ニ必要ナルコトハ輸出獎勵ト貿易上實際ノ活動トニ必要ナル制度組織デア
ル。輸出獎勵ノ制度ニ關シテハ種々ノ方策モアルコトデアリ、獨逸其他諸國ノ行ツ
テ居ル所モ色々アルガ、然シ吾人ハ政府ガ積極的ニ輸出貿易ニ對シテ保護ヲ與フ
ルノ方法ニハ贊成シ得ザルモノデアル。吾人ノ見ル所ヲ以テスレバ日本ノ事業家
ハ製造業者ト云ハズ、商人ト云ハズ、兎角政府ノ袖ニ纏リ過ギル弊ガアル様ニ思ハ
ル。何事モ新規ノ事ト云ヘバ政府ノ補給政府ノ直接指導等カナクテハ行ヘヌト
云ツタ風ナ所ガアツテ、頗ル企業的精神ニ缺グル所ガアル。故ニ今後政府ハ貿易推
奨ノ方法ヲ講ズルニシテモ、タダ消極的ニ發展ノ障礙トナル可キモノヲ除去シ、營
事者ヲシテ自ら進ムデ自發的ニ又自助的ニ事ヲ爲スノ風ヲ育成セシムルニ心懸
クルガ得策ダト思ハル。唯ダ併シ乍ラ、彼ノ關稅率ノ制定ノ如キニ當ツテハ成可

ク協定主義ニ據ツテ輸出貿易ニ活動ノ餘地ヲ與ヘ、通商條約ニ依ル協定稅率ヲ定ムルニハ双務主義ヲ執テ讓ラズ、成可ク廣ク我が輸出ノ通路ヲ開クニ努ムルニ遺憾ナキヲ期セナクテハナラヌノデアツテ、之等ノコトハ政府能ク之ヲ爲スニ非ズンバ當事者ハ又之ヲ奈何トモスルコトガ出來ヌノデアアル。

輸出貿易伸張ノ方法トシテ彼ノ『カルテル』ヲ組織スルノ利害ニ就テハ頗ル研究ニ値スルモノガアル。當業者ガ白ラ助クル方法トシテハ『カルテル』ノ如キハ最モ有效ナル組織タルヤ疑ナキ所デアリ、其ノ内國市場ニ對スル弊害ノ甚シキモノアルニ非ザル限リハ敢テ悉ク之ヲ非難ス可キデハナイ。獨逸ノ輸出業者ガ天下ヲ横行濶歩スルモ此ノ『カルテル』ノオ蔭ニ依ルモノ尠カラザルハ絮説ヲ待タザル所デア。ル。而シテ彼ノ原料購入、勞働時間、勞働者雇入、販賣區域等ニ關スル『カルテル』ハ餘リ多ク問題トナラヌガ、彼ノ賣價ニ關スル『カルテル』ニ至ツテハ其働ノ有效ナルダケ又其ノ弊害モ少クナイノデアアル。ケレドモ兎モ角獨逸ナドニ在ツテハ此『カルテル』ノ力ニ依ツテ能ク内國市場ノ賣價ヲ支持シ、輸出ニ關シテハ内國賣價ノ二割、二割五分、三割、三割三分ト云フガ如キ割引ヲ實行シテ、以テ外國市場ヲ侵襲シ、所謂『ダムピング』ニ依ツテ之ヲ攻略スルニ努メテ居ルノデアアル。英國市場ノ苦ムハ之ガ爲メ

デアツテ、然カモ英國市場ニ對スル獨逸ノ『ダムピング』ハ最モ好ク成功シタモノデア
アル。而シテ此『カルテル』ガ能ク其働ヲ爲シ得ムガ爲ニハ他方ニ保護關稅ノ有ルア
ツテ、外國品ノ來ツテ内國市場ニ競争ヲ試ムルヲ排除スルヲ必要トスルヤ申ス迄
モナイ。要スルニ『カルテル』ハ利刀デアアル能ク敵ヲ斃スト共ニ味方ヲモ傷ケ得ルノ
デアアル。吾人ハ我が貿易發展ノ一助トシテ其ガ或程度マデ發達スルハ必要デモア
リ己ムヲ得ヌコトデモアルト信ズルガ、之ニ對シテハ常ニ政府ト社會トハ監督ノ
目ヲ放スコトガ出來ヌノデアアル。

次ニ重要ナル條件ハ商品ニ關スル研究デアアル。即チ商品ヲシテ其ノ需要地方ニ
於ケル趣味嗜好ニ適合セシムル様常ニ其ノ地方的要求ヲ調査シ、生産者ハ其點ニ
於テハ己レヲ空クシテ需要者ノ意ニ投ズルニ心懸ナクテハナラヌ。例ヘバ隣寸一
ツニシタ所ガ支那向ハ支那向ノ様ニ貼紙ノ模様モ工夫シナクテハナラヌ。軸木ノ
大サ發火程度等ノコトモ考ヘナケレバナラヌ。而シテ之ヲ濠洲ニ向ケンガ爲ニハ、
先ヅ貼紙モ支那向ノ如ク濃厚ナ色彩ノゴテ、ゴテ、シタモノデハ不可デアツテ模様
ハ可成アツサリシタモノニスルトカ、軸木ハ可也丈夫ニスルトカ、發火燃燒後直チ
ニ藥ノ付イタ頭ノ取レテ落チルノハ不向デアアルトカ云ツタ様ナ、極メテ些細ノ點

マデ注意ヲ拂フヲ必要トスル。此ノ僅カナ注意ノ缺グル爲メニ需要ノ終ニ盛ナルニ至ラス、例ハ幾ラモ之ヲ見ルコトガ出來ルノデアアル。由來獨逸ハ頗ル此點ニ注意シ之ニ依ツテ成功シタ所ハ歎賞ニ値スルモノデアアル。然ルニ我國ノ生産者ハ動モスレバ自己ノ趣味若クハ日本趣味ニ依テ推通サウトスルノ風ガアル。之ハ歐洲市場ナドニ表ハレテ居ル日本商品ヲ實見スル毎ニ吾等ノ念頭ニ浮ブ所デアツテ、此點ハ是非改良ヲ要スルモノガアルト思ハルル。惟フニ之モ必竟一ツニハ需要地ニ對スル研究ノ足ラスガ爲デアルカラ、十分研究ノ功ヲ積ム工夫ガ肝要デアアル。而シテ其爲ニハ日本ノ領事ナドハ今少シク働イテ好イ答デアアル、セメテ獨逸ノ領事ノ働ク程度位ニハ遣ツテ欲シイモノデアアル。

次ニハ販賣上ノ努力ニ於テ今一奮發ガ必要ト思ハルル。世界各市場ニ於ケル獨逸商人ノ成功ハ亦此點ニモ歸因スルノデアツテ、其ノ努力ハ流石ニ範トスルニ足ルモノガアル。即チ先ヅ完全ナル商品目錄代價表ヲ到ル所ニ發送スルハ申ス迄モナク、實物見本ヲモ無代無郵税ニテ送付シ、一定期間ノ試用モ差支ナキコトトスル。然ル上ニテ時機ヲ逸セズ賣廣メノ爲メニ堪能ナル人々ヲ各所ニ派遣スルノデアアル。而シテ通信文ハ出來得ル限り其國ノ國語ヲ用ヒ然ラザレバ英語ヲ用フルニ客

ナラズ、又賣廣メノ爲メニ派遣スル旅行者ハ可成其國ノ言葉然ラザレバ英語ヲ自由ニ話シ得ル者ヲ選ブノデアアル。又有爲ナル代理店ヲ置クコトニモ頗ル注意ヲ拂ツテ居ル。而シテ又販賣上ニハ種々ノ策略ヲ用ヒ倫敦市場ノ如キニ於テスラ、或ハ英人ノ名義ヲ以テスルトカ其他種々ノ方法ヲ以テ、實ニ劃策ニ拔目ハナイノデアアル。總テ此等ノ點ハ悉ク感心ノ出來ルモノデハナイガ、然シ其或者ニ就テハ日本ノ商人モ少シハ之ヲ學ムデ然ル可キデアアル。マシテ戰後ニ於テ更ニ大ニ我ガ貿易ノ羽翼ヲ伸サントスルニハ商人ハ今一層ノ努力ヲ必要トスルヤ論ヲ俟タナイ。

次ニ必要ナルハ企業ト金融トノ連絡デアアル。此點ハ方今事業界ニ在ツテ何等カノ事業ヲ爲サムトスル者ノ最モ頭ヲ悩マス所デアルト思ハルル。然ルニ悲哉我國ニ於テハ兎角兩者ノ連絡圓滑ナラズ、事業ヲ爲サンニモ資金ヲ得ルノ道ナキト、頗ル高利ヲ拂フニアラザレバ之ヲ得ルニ難キトハ最モ企業家ノ苦痛トスル所デアアル。此事ハ獨リ我國ニ於ケル病タルノミナラズ、英國ノ如キニアリテモ常ニ之ニ關スル不平ヲ聞クノデアツテ、銀行家ノ無能若クハ臆病ト云フコトハ、實ニ事業界ヨリ放タルル怨聲タルノミナラズ、批評的地位ニ立ツ人々モ亦之ヲ道フヲ憚ラヌノデアアル。而シテ此點ニ關シテモ亦獨逸ハ頗ル努メタルモノアリ、所謂 Financier ニシ

テ直接間接ニ生産事業若クハ外國貿易ノ如キニ關與シテ居ル者ノ少カラザルハ、勿論ノコト、堂々タル一流ノ銀行ニシテ海外ニ於ケル大企業ニ與ハリ若クハ又小規模工商業ノ如キニ迄資金ヲ下ロシテ居ル有様デアアル。彼ノ「ドイツツエ、バンク」^一「ドレスデーナー、バンク」^二「ヂスコント、ゲゼルシヤフト」^三ノ如キ大銀行モ之ヲ唯ダ一ノ純然タル銀行ト見テハ間違デアアル。勿論此種ノ遣方ガ銀行トシテ健全ナル遣方デアルヤ否ヤ、推獎ス可キモノナルヤ否ヤニ就テハ議論ノアル所デアリ、吾人ハ寧ロ之ニ贊成シ得ザル者デアルガ、斯ク迄ニシテ獨逸ノ一般ガ努力奮闘シツツアル點ニ至ツテハ、感心シテ遣ツテ好イ所デアアル。何シロ獨逸ノ遣方ニハ何時モ多少ノ無理アルヲ免レヌノデアアル。

ソハ兎モ角、我國ニ於ケル問題トシテハ製造工業ニ從事スル者ニモ、輸出貿易等ノ業ヲ營ム商人ニモ、今少シク金融上ノ便ヲ與フルノ必要ガアルト思ハルル。ゾレガ爲メニハ(一)今少シク金融ノ道ヲ開クコトト(二)海外ニ金融機關ヲ普及セシムルコトトガ必要デアアル。今少シク金融ノ道ヲ開イテ餘リ高利ナラザル資金ヲ獲ルヲ得セシメ、殊ニ新タナル企業ニ對シテハ多少ノ不安アルハ免レ難キ所ナレバ、銀行家ハタダ只管安全ト云フコトヲ目安トセズ、人的信用アル者ニハセメテ能ク事業

ノ成立チ得ルダケノ利率ニ於テ資金ノ融通ヲ與フル道ノ開ケ來ラバ、我が事業界ハ大ニ露フコトデアラウ。而シテ此事ハ小規模企業者ニ於テ特ニ然ルヲ見ルノデアル。次ニ金融機關ノ普及ト云フ點ニ就テハ、現今ノ如ク唯ダ一ノ正金銀行アルノミニテ、ソガ少數ナル支店出張所ヲ以テ專ラ其事ニ當ルダケデハ、今後我が貿易ガ地理的ニ擴大シ又事業成績ノ上ニ於テ増加發達スルニ於テハ到底不足ヲ感ズルヲ免レ難イ。方今ト雖モ已ニ諸所ニ其ノ歎聲ヲ聞クノ有様デアアル、況ンヤ戰後貿易ノ大發展ヲ期スルニ於テオヤ。彼ノ日支銀行ノ設立計畫ノ、如キモ此ノ意味ヨリスレバ歡迎ス可キモノデアアル。

詮ズル所金融ハ事業ノ血液デアアル、其ノ循環十分ニシテ圓滑ナラザレバ事業界ハ發達セムニモ發達スルコトガ出來ヌ。事業ノ後ニハ必ズ銀行アツテ之ヲ助クルニ於テ甫メテ事業ハ活潑ニ働クコトガ出來ルノデアアル。吾人ハ我國ノ現狀ハ此點ニ於テ尙ホ太ダ不完備ナルモノアルヲ否ムコトガ出來ヌト思フ。今一段兩者ノ連絡ノ親密圓曲ナラムコトヲ希望シテ已マヌ次第デアアル。

之ヲ要スルニ右等各般ノ條件ハ戰後我が輸出貿易ノ大ニ伸張セムガ爲メニハ必ズヤ表ハレ來ル可キ問題デアリ、又其條件ノ充サレムコトヲ必要トスルノデア

ツテ、此等諸多ノ關係ガ調和アル結合ヲナシ茲ニ一ノ整備セル全體トシテノ狀態ヲ實現スルニ於テ輻チ我ガ貿易ハ健實ナル發展ヲ遂ゲ得ルコトトナルノデアル。而シテ總テノ方面ニ計畫ヲ缺ギ渾然タル統一ノ出來テ居ナイノハ、我國現下ノ國民經濟ノ大缺點デアアル、今後ハ可成之ヲ整フルニ努メナクテハナラヌ。輸出貿易ノ發展ト云フガ如キモ亦此ノ大イナル着眼ヨリシテ組織的ニ計畫的ニ一步一步着實ナル武歩ヲ踏ミ占メツツ進ムコトガ肝要デアアル。戰時中遇發ノ一時的景況ノ爲メニ此ノ着眼ヲ失フコトナキ様警戒シナクテハナラヌノデアアル。

戰後ノ貿易ヲ論ズルニ當ツテハ國際爲替ノ關係ニ就テ論究スル所ナクテハナラヌノデアアルガ、之ハ專ラ戰後ノ金融ヲ論ズル他ノ論文ノ本誌ニ載セラルルコトト考ヘラルルカラ、其方ニオ譲リスルコトトスル。